

No. 1151

球 春

— 中日ドラゴンズ —

プロ野球のスプリング・キャンプは2月1日全国各地で一斉に幕をあけた。覇権奪回を目指す中日ドラゴンズはセ・リーグ一番乗りのキャンプ地・浜松でスタートした。

背番号2、ドラフト一位指名田尾も初日から参加、マーチン・ローン両外人選手も今年はやる気充分、優勝へのカギを握る投手陣、エース星野仙、ミラクル投法松本が早くもピッチングを開始、切り札鈴木孝政は今年もいけると自信満々。与那嶺監督に要請されてコーチとして古巣に返ったバートのノックを受ける内野陣、高木守道は今年も攻守の要。ファーストをマーチンにまかせ打撃に専念する谷沢。昨年おしくも首位打者を逃した井上は特訓に次ぐ特訓。圧巻はルーキー田尾のバッティング。今年はずつと、"エトにちなんで昇竜を"と中日ドラゴンズは投・打とも快調なダッシュを見せた。

人形造り

— 埼玉・岩槻 —

東京からおおよそ、30キロ、関東平野のほぼ中央に位置する岩槻市。この町は古くから"人形の町岩槻"として知られる。岩槻人形は寛永年間に伏見の人形師が日光東照宮、造営の帰途、この岩槻に足を止どめ、そのまま、人形造りを始めたことがそのおこりだと伝えられる。岩槻のひな人形は今も昔と変らぬ手仕事にたよる部分がほとんど。

平野さん一家は3代にわたって人形造りをしている。人形のよしあしは顔できまると言う。それだけに頭(かしら)づくりは大切な作業である。

小刀の先に神経を集中させ、たんねんに眼を切っていく。人形の顔の表情を出すにはまつ毛を描き、口紅を入れ、頭髪を一本一本描いていく。これを面相といい、人形の顔が生きるかどうか大事な瞬間である。髪の毛はスガト呼ばれ、絹製の糸を用いる。髪型は各時代の風俗を伝え、結髪の技術と共に古い髪型を残していくのも人形の使命のひとつ。ていねいにスガを結び上げると頭(かしら)ができ上がる。人形の衣裳は主に西陣織など日本の伝統的な布が使われる。胴づくりはいちばん手間のかかる仕事。わら東のハダカから振付けまで数えると、内裏さまで100の工程はゆうに越すという。

人の心をなごます美しさ、雅びた味わい、それは名匠たちの手づくりの中から生れている。